

## 修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	生涯看護学分野 老年看護学領域	学籍番号	216603
		氏 名	田端 真
論文題目	急性期病院に勤務する看護師の認知症高齢者への看護に対する困難感と関連要因		
キーワード	急性期病院 認知症高齢者 看護師 困難感 関連要因		
<p>【背景】</p> <p>認知症の有病率の増加に伴い認知症高齢者が急性期病院へ入院する機会が増えることから認知症高齢者への適切な対応が求められるが、認知症看護に慣れていない看護師の困難感が指摘されている。したがって、急性期病院における認知症高齢者への看護に対する困難感や関連要因を明らかにし、困難感の軽減に向けた対策を検討することが重要となる。</p> <p>【研究目的】</p> <p>本研究は、急性期病院に勤務する看護師の認知症高齢者への看護に対する困難感の因子を明確化した上で、困難感に関連する要因を明らかにすることを目的とする。</p> <p>【研究方法】</p> <p>病床機能報告制度で用いられた「高度急性期機能」を有する病院を急性期病院とし、A 県内の急性期病院の看護師 1731 人に無記名自記式質問紙調査を実施した。質問紙の回収数は 711 人、回答に欠損のあるものを除き 620 人（有効回答率 35.8%）を分析対象とした。急性期病院における認知症高齢者への看護に対する困難感として自己作成した質問項目は因子分析を行い、個人要因、環境要因との関連を明らかにするため急性期病院における認知症高齢者への看護に対する困難感の各因子の下位尺度の合計得点と個人要因、環境要因について t 検定を行った。さらに各因子の下位尺度の合計得点を従属変数、t 検定により有意差がみられた個人要因、環境要因を独立変数として重回帰分析を行った。</p> <p>【結果】</p> <p>急性期病院における認知症高齢者への看護に対する困難感は【認知症の疾患理解と症状対応】【認知症高齢者の安寧確保のためのアプローチ】【医師との連携】【認知症高齢者への個別的な看護の実施】【認知症高齢者の看護アセスメント】【看護師の陰性感情のコントロール】【認知症高齢者看護に対する葛藤への対処】の 7 因子から構成され、累積寄与率は 50.2%、Cronbach <math>\alpha</math> 係数は 0.64～0.83 であった。急性期病院における認知症高齢者への看護に対する困難感の関連要因は、認知症高齢者のイメージ、認知症のコミュニケーションの理解、看護師経験年数、現在の病棟経験年数、認知症看護研修の受講経験、認知症看護の責務、定期的なカンファレンス、環境の工夫、病棟全体の認知症看護への意識の 9 項目であった。</p> <p>【考察】</p> <p>急性期病院における認知症高齢者への看護に対する困難感は、短期間で身体疾患の治療を優先する急性期病院の特徴を反映した因子構造であると考えられる。ネガティブなイメージや認知症看護への意識の低さと困難感が関連したことから、急性期病院の看護師は認知症高齢者特有のコミュニケーションについて理解し、看護の成功体験から認知症高齢者へのイメージをプラスに変換することの重要性が示唆された。また、経験年数の多さ、認知症看護研修の受講経験があることと困難感が関連したことから、多職種が専門的視点を持って連携し認知症高齢者への支援を行うシステムの構築、急性期病院に特化した認知症高齢者への看護の方法や環境への工夫の構築をすすめる重要性が示唆された。</p>			